

美の里づくり審査会特別賞

田和集落（兵庫県佐用町）

和やか棚田の里づくり

田和集落は、過疎化・高齢化の進行している山間の集落です。先人の残した美しい棚田を保全するとともに、集落の農地保全意識を高めようと、平成9年度から棚田保全ボランティアである都市住民(棚田交流人)と農作業を通じた交流活動を行っています。

交流活動は、毎月第4日曜日を交流日とし、その

内容は交流体験田等の共同作業、集落内の清掃等の共同作業、交流イベントなどで、毎回の参加者数に変動はあるものの継続して行われています。

また、この棚田交流の継続と田和の山村景観を保全したまちづくりを考えるため、田和集落住民と棚田交流人との間で合意がなされ、景観の形成等に関する



る条例に基づく「景観形成等住民協定」が兵庫県知事から認定されています。

高齢化の進行により、先人たちが営々と築いてきた棚田が荒廃し、農山村のもつ公益的機能の維持が困難な状況から、「なんとかしたい」との集落住民の願いがありました。その対策に苦慮していたとき、棚田ボランティアである「棚田交流人」の受け入れが検討されました。集落協議を重ねた結果、棚田ボランティアを受け入れて活性化を図ることへの集落総意がまとまり、平成9年に交流活動に係る事前研修会として田和集落において棚田体験（白菜や大根の植付け・稲刈り）や集落住民との昼食会等による交流会が行われました。

その後、棚田ボランティアと田和集落住民と今後の具体的な交流活動について話し合いがなされ、平成10年から本格的な交流活動が始まっています。現在の交流活動は、毎月第4日曜日を交流日として、交流体験田等の共同作業（草刈り、耕耘、野菜の植付け、田植え、稲刈り、野菜の収穫、果樹園づくり等）、

集落内の清掃等の共同作業（道路端の草刈、溝清掃、獣害防護柵の点検、耕作放棄田の草刈等）、交流イベント（夏祭りの夕べ、収穫祭など）を集落住民と棚田ボランティアで一緒に行っています。

棚田ボランティアである都市住民（棚田交流人）と農作業を通じた交流活動を継続する中、年々過疎化・高齢化の中でどう集落を活性化していくか、将来を見据えたまちづくり方策の勉強会を開催しました。その結果、田和集落の現状や将来像について集落住民と棚田交流人との意見交換が活発化し、まちづくりにとって大切な景観の認識を深めることができ、今後の更なる発展が期待されています。

■講評

都市住民との交流を通じて地域の棚田保全を行い、実際に荒廃していた農地を回復するまでに至っています。さらには、棚田保全を通じて住民協定が認定されるなど、交流を通じた農地保全、景観保全が実践されていることが高く評価されました。

